

番号	13	名称	文房堂ビル
指定日	平成 15 年 6 月 9 日	所在地	神田神保町一丁目 21 番地
設計者	手塚亀太郎（改築：久保田俊彦）	竣工	大正 11 年（1922）、平成 2 年（1990）改築



歴史・文化的特徴

明治 20 年（1887）創業の老舗の画材店。

大正 11 年（1922）竣工の翌年に関東大震災で焼失したが、当時としては数少ない RC 造だったために倒壊を免れた。第二次世界大戦の戦禍をもくぐりぬけた。

平成 2 年（1990）、すずらん通り側のファサードのみが残され、建物本体は建替えられた。

「第 2 回千代田区景観賞 ちよだ景観界限賞（平成 5 年度）」を受賞している。

意匠・構造の特徴

保存された外壁は、表面に筋状の引っかき傷を沢山付けて焼き上げ、独特の趣のある重厚感を持つ「スクラッチタイル」で仕上げられ、1 階上部やアーチや 2 階窓台、2 階窓上のライオンの飾り、3 階アーチ窓のキーストーン、最上部パラペットなどに、テラコッタの装飾が使われ、ロマネスク風の趣味のなかに、アールデコ調が取り入れられている。重量感のあるファサードである。

周辺景観との関係

関東大震災まで、すずらん通りはこの地域のメインストリートで、今も商店街には看板建築が数多く残っている。

文房堂ビルは、すずらん通りの入口にあって一際目を引き、商店街の歴史と誇りを物語る。